

エゾシマリス

Tamias sibiricus lineatus

リス科



エゾシマリス

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

名前の由来

北海道(エゾ)に生息するシマリス。シマは体に縞のあるリスであることから。リスは栗鼠の「りっそ」から転訛したもの。漢字名：蝦夷縞栗鼠

形態的特徴

頭胴長(鼻尖から尻尾の付け根まで)12~15cm、尾長11~12cm、体重71~116g。体毛は茶色で背中に5本の黒縞がある。縞の間と腹部は白色。

類似種：なし。

生息環境・分布

平地から高山の様々な森林に生息。森の中の地下巣に食物貯蔵をして、半年以上冬眠する。(→興味深い話の項参照)
分布：国外では、サハリンに分布。国内では、北海道に分布。北海道内では、全域に分布。十勝地方では、平地から高山の森林に広く分布する。

繁殖生態・寿命

メスは冬眠からさめて3日程で交尾期を迎え「コロコロ」という声を出してオスを呼び、複数のオスと交尾するという。30日後、一度に3~7頭の子を産み、60日程育てる。飼育下では最長9年、野外ではオス5年、メス6年の生存記録がある。

食性・他生物との関わり

木や草の種子、昆虫、陸貝、小鳥の卵などを食べる。天敵はキタキツネ、オコジョ、イイズナ、エゾクロテン、

ニホンイタチ、シマヘビ、タカ・フクロウ類など。

興味深い話

- 秋期には頬袋をふくらませてドングリなどを貯食する姿を見ることができる。冬眠の為に地中にトンネルを掘るが、冬眠部屋兼食料庫のほかトイレなどもある。
- 冬眠期間は、成メスが平均211日、成オスが180日、若メスが194日、若オスが169日だという。
- 冬期時には、体温を3~8℃くらいまで低下させ、呼吸数も減らすが、10日に1回程度は体温が上昇して目を覚まして採餌や排泄を行う。

右前足

右後足

- 冬眠を始めるのはメスが早く、終わるのはオスが早い。
- ほとんど鳴く事はないが、交尾期には「ポ、ポ、ポ、・・・」という声を出す。
- エゾシマリスはシベリアシマリスの亜種。^{*}シベリアシマリスはシベリア全域、サハリン、モンゴル北部、中国北部~中部、朝鮮半島に分布。
- 十勝地方のアイヌ語では「カセクルル」「エペシロ」という。

^{*} 亜種：同じ種が地理的に隔離され、独自の分化をとげ、形態的に違いがあるもの

配慮事項

本州などではペットとして飼われていた亜種チョウセンシマリスが野生化している。北海道の一部でもこれらが野生

化していることが確認されており、エゾシマリスとの交雑や置き換わりが懸念されている。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出現期				■								
オスの冬眠期	■											
メスの冬眠期	■											
交尾期					■							
出産・子育て期						■						

参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 東海大学出版会 1994
「動物名の由来」中村浩 東京書籍 1981
「日本動物大百科Ⅰ 哺乳類Ⅰ」日高敏隆 監修 平凡社 1996
「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新

聞社 1997

「フィールドガイド 足跡図鑑」子安和弘 日経サイエンス社 1993
「本別町生活文化誌 抜刷 第九編 アイヌの生活と文化」
「コタン生物記Ⅱ 野獣・海獣・魚族篇」更科源蔵・更科光、法政大学出版社 1976